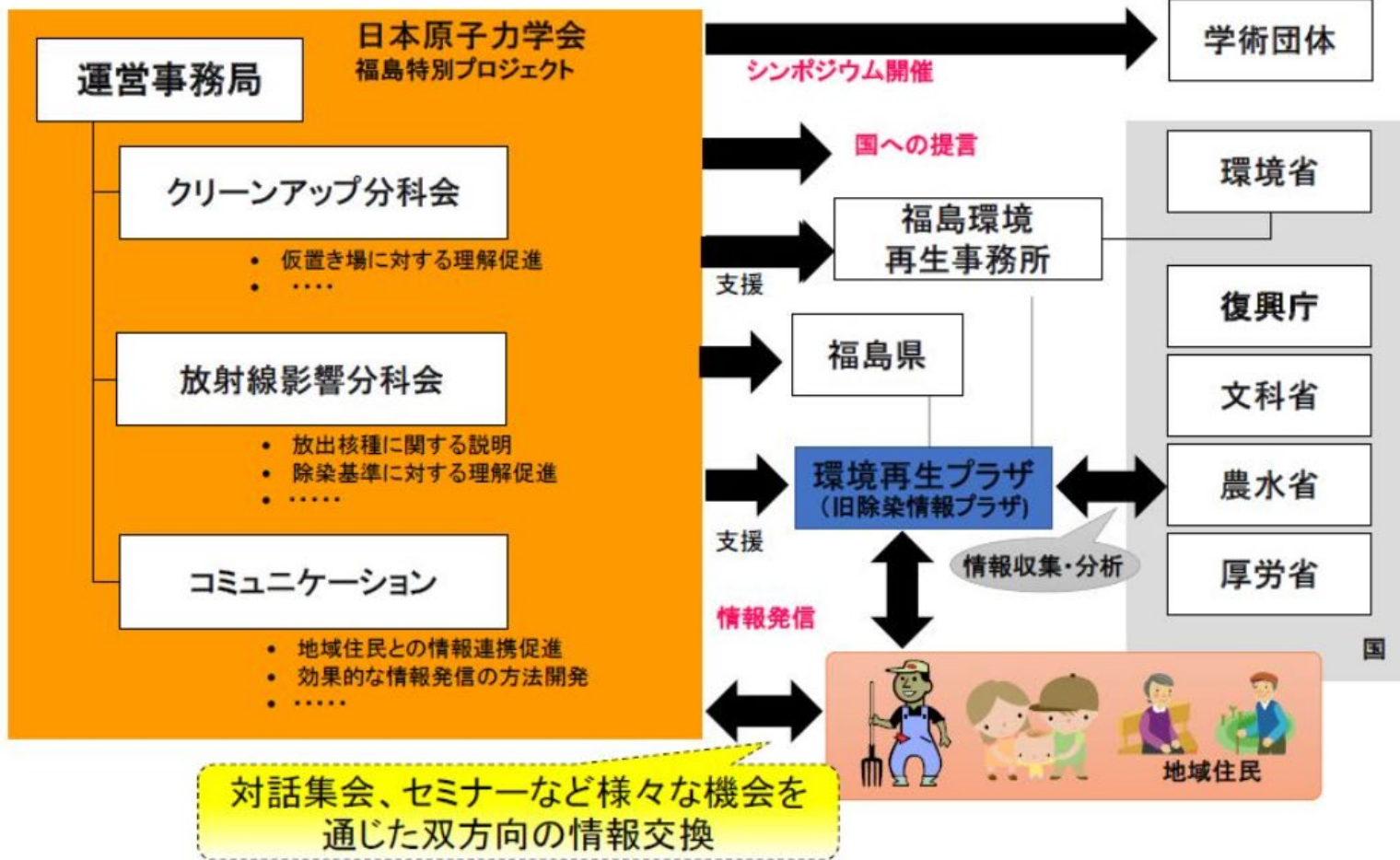


「福島特別プロジェクト」の活動

日本原子力学会 福島特別プロジェクト／社会・環境部会
布目 礼子(原環センター)



日本原子力学会は、東京電力福島第一原子力発電所の未曾有の事故による原子力災害の修復にあたり、現地の視点に立ち学会の総力を結集して臨むために、理事会直結の組織として「福島特別プロジェクト」を創設しました。本プロジェクトは、地元にとって切実かつ喫緊の課題である周辺環境の除染作業のサポートや放射線影響に関する分析・助言など現地における活動を中心としつつ、事故炉に関する中長期対策などについて、関連する部会、専門委員会等の学術的な知見も最大限に活用し地元に取り有益な情報を分かりやすく発信するなど、地元役に立つ活動を幅広く実施することを目指すものです。

活動の概要

■見解・記事・報告書等の発信

- 除染・帰還・復興に関する見解（2016年8月25日）
- 福島特別プロジェクトの活動と今後の展開（2014年3月号）
- 福島復興・再生に向けて―震災後9年を振り返る―（2020年8月号）
- 福島復興支援策に関するアンケート調査 報告書（2023年）

■シンポジウムの開催（2012年～2018年）

■地域交流イベントの開催（2019年）

■環境再生プラザへの専門家派遣（2012年～）

■稲作試験（2012年～）

■学校教育（福島県）への協力・支援（2020年）

シンポジウムの開催(1)

- 「東京電力福島第一原子力発電所の今は？ 今後は？」
2012年5月26日(日) 会場:コラッセふくしま 参加者:約250名
- 「東京電力福島第一原子力発電所事故後の取り組み」
2012年6月16日(日) 会場:コラッセふくしま 参加者:約250名
- 「東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組み」
2013年1月20日(日) 会場:コラッセふくしま 参加者:約200名
- 「東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組み－住民被ばくの現状と環境動態－」
2013年8月25日(日) 会場:コラッセふくしま 参加者:約120名
- 「東京電力福島第一原子力発電所事故後の環境回復の取り組み－除染の現状と低線量被ばく－」
2014年1月19日(日) 会場:コラッセふくしま 参加者:約120名
- 「女性のためのフォーラム－低線量被ばくと健康影響について－」
2014年8月30日(土) 会場:コラッセふくしま 参加者:約100名

シンポジウムの開催(2)

- 「農作物と放射性物質・放射線と健康影響」
(日本原子力学会・日本放射化学会合同シンポジウム)
2015年1月30日(土) 会場:いわき産業創造館(いわき市)
- 「除染の進捗・放射線と健康影響」
2015年8月1日(土) 会場:郡山商工会議所(郡山市)参加者:約100名
- 「福島環境回復に向けて-5年の歩みと今後の課題」
2016年2月13日(土) 会場:コラッセふくしま 参加者:約80名
- 「福島の明日を見つめる-みんなで考える除染・帰還・復興」
2016年7月23日(土) 会場:いわき産業創造館(いわき市)参加者:約80名
- 「消費者のギモン?福島県産ってどうなの?」
2017年3月26日(日) 会場:大手町ファーストスクエアカンファレンス(港区)
参加者:約70名
- 「福島県の現状と取り組み」
2018年6月16日(土) 会場:コラッセふくしま 参加者:約80名

シンポジウムの開催(3)

「女性のためのフォーラム－低線量被ばくと健康影響について－」

2014年8月30日(土)

会場: コラッセふくしま 参加者: 約100名

■ 講演

「放射線防護における安全とは」
神田玲子氏(放射線医学総合研究所)

「低線量放射線の生体への影響と食の重要性」
宇野賀津子氏(ルイ・パストゥール医学研究センター)

「放射線と子供の健康」
市川陽子氏(福島市の医師)

■ 会場との質疑応答

- ✓ がん以外に考えられる低線量放射線の影響は？
- ✓ 女性と男性でのコミュニケーションの使い分けは？
- ✓ 女性目線の企画でわかりやすかった



地域交流イベントの開催

「富岡の環境再生を目指して」

2019年7月13日(土) 会場:富岡町学びの森 参加者:32名

- 富岡町からの報告
「東日本大震災・原発事故からの復興状況と町の現状」
- 環境省からの報告
「除染・汚染廃棄物処理・復興の現状と今後について」
- 原子力学会からの情報提供
「学会の稲作現地試験／放射線・放射能について」
- テーブルトーク (コーディネーター:長崎大学折田真紀子氏)
 - ◆ 今の生活で困っていることや放射線対策に対する疑問
 - 復興住宅での住民のネットワークが希薄(活動がない、高齢者が多い)
 - 生活に必要な施設が十分でない(スーパーの営業時間、飲食店が少ない、医者や床屋が不足)
 - 娯楽施設がない
 - 放射線・放射能に関する情報の入手が困難(情報発信している場がない)
 - ◆ これからの町づくりの課題や対策
 - 地元産業の活性化が見えてこない
 - 女性の職場が少ない
 - 帰還困難区域にある自宅の今後(維持管理、売却など)に対する不安
 - 震災前からの住民と震災後に入居した住民との融合



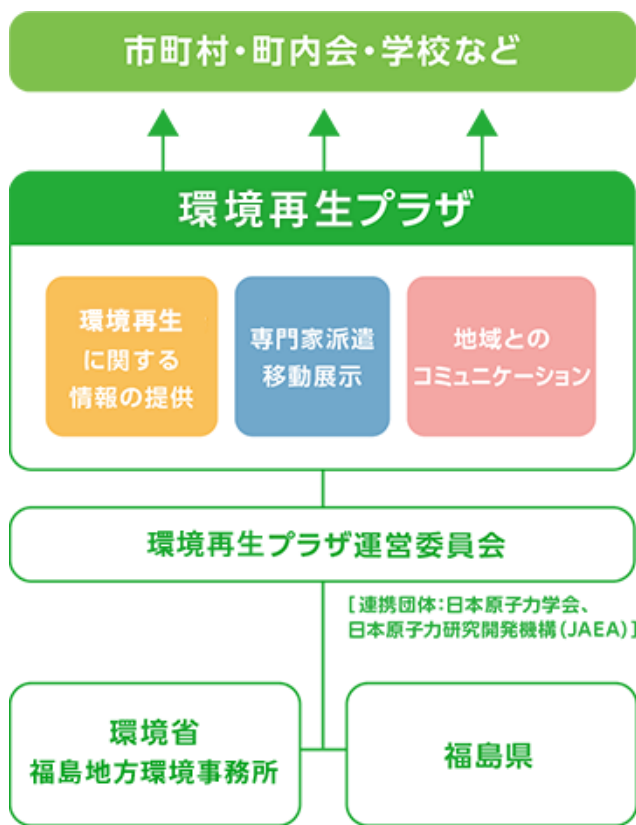
環境再生プラザ(旧除染情報プラザ)への専門家派遣

2012年1月21日(土)除染情報プラザオープン

土、日曜日に質問対応のために専門家を派遣

2017年7月14日(金)環境再生プラザに名称変更

(述べ1000名以上派遣(2020年12月末))



(環境再生プラザWebサイトより)

福島復興支援策に関するアンケート調査（2021年実施）

浜通り地域が目指すべき将来像

- 若年層の定住化を図り子育てしやすい環境づくりに力を入れてほしい。
- ちいさな子ども達が成長して大人になっても住みたい街づくりを目指してほしい。
- 型通りの街ではなく、地域の特性を生かして今までの産業だけでなく新たな企業誘致や自然を生かした観光産業を行って欲しい。
- 浜通りは一番安全だ、という風評を目指そう！
- 人が安全、安心して生活できる地域にならないと。
- 事故前から住んでいる人と、事故後に移住や仕事で訪れた人の交流から新しい産業が創出されるとよい。
- 廃炉を通じて、世界を代表するようなテクノロジーのモデル都市になってほしい。

福島復興全体に関する要望等

- 風評被害を払拭してほしい。(多数あり)
 - 福島は安全、ともっと発信してほしい。
 - 廃炉事業だけでは無く、幅広い分野の雇用の創出。
 - 原発の廃炉だけでなく、新しい産業が産まれるような仕組みや仕掛けが必要。
 - 今後は福島県の復興状況をどんどん発信し、いい意味で魅力的な部分を知ってもらえるようにしていけたらいいと思う。
- 福島の将来に対して、若年層が定住し、安全・安心な生活基盤を持ち、新たな産業が創出されるような地域を目指したいという前向きな意見がある。
- 国の施策について、その効果を住民がもっと実感でき、安心して生活できるように進めていくことが必要ではないか。

福島特別プロジェクトの今後

- 環境再生プラザや市町村等からの派遣要請に継続的に対応
→ 国や県、その他組織・機関の支援的な役割へ
- 震災から13年が経過:主体的な活動からサポート的な役割へ
 - ①浜通りの再生・復興に寄り添う(協力)
 - ②稲作試験の継続
 - ③福島県における学校教育への協力・支援
 - ④国の復興支援による地域活性化の整理と提言
- 今後も、地元の方々の関心・ニーズに応える活動を継続
 - ①帰還困難区域の再生・復興への協力:特定復興再生拠点区域外への対応も
 - ②風評被害への対応:処理水放出による農水産物への影響等の注視
 - ③廃炉作業への懸念の対応:住民の方々への丁寧な説明ときめ細かな対応
- 専門知や経験と地元の方々とのハブ的な役割も